

**宗祖御降誕800年**

日蓮聖人は承久4年(1222)千葉県安房小湊に誕生されました。のち清澄山で出家され、当時の最高学府であった比叡山に学び仏教各宗の教えを究めて、法華経こそが仏の真実無二の教えであると確信を持たれました。以後その法華経の教えを説き広め、仏の慈悲の手に包まれた理想の社会実現のために、生涯を尽くされたのです。

法華経の詩人、宮澤賢治はその精神を自身の生き方として生きた人でした。彼の「世界がぜんたい幸福に



編集・発行 能勢妙見山 日蓮宗 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

はありえない」という言葉は、その生き方を端的に表したものであり、これはそのまます法華経の心、日蓮聖人の説かれるところを示すものでもあります。ともすれば私たちは、目の先の利、殊に自分自身にとつての損得勘定に流されがちです。それがさらに顕著になっていくというのが、最近の世の風潮ではないでしょうか。これが結果としては、互いが我を張る住みにくい世の中となり、民族の紛争、国と国の戦争にまで進んでいくのです。

政治の世界でもまた経済状況を見ても、先行きの不安が増大する中で、今ほど日蓮聖人の説かれる理想の社会実現のための努力が必

**《法華経に学ぶ現代》** 純智庵

**他人の為に**

**説かずんば**

**疾く阿耨多羅**

**三藐三菩提を得るを**

**能わじ**

『常不輕菩薩品第二十』

どんなに正しい教えでも他人に説かなきゃ意味はないだから仏陀は出会うたび縁を活かして人々に真理の世界を説きましたみんなに目覚めてほしいから生き甲斐持つてほしいから一人ひとりの幸せを願って教えを説きました悟ると言う字は吾が心その心を磨くためいのちの不思議と向かいあえ答えはアノクダラサンミヤクサンボダイ

- 【6月の主な行事】**
- ★写経会 10日(日)11時
  - ★月例祈願法要 15日(金)13時
  - ★星嶺演奏会 17日(日)11時
  - ★星嶺茶論 17日(日)13時
  - ★鷗様月例祭 22日(金)15時
- 【7月の行事予定】**
- ☆七夕祭7日(土)〜8月7日(火)
  - ★写経会 8日(日)11時
  - ★星嶺演奏会 15日(日)11時
  - ★月例祈願法要 15日(日)13時
  - ★鷗様月例祭 22日(日)15時
  - ※火伏守札を授与
  - ☆虫払祈禱祭22日(日)〜24日(火)
  - 宝刀(浪切丸)を頭に頂き、煩惱の虫を払ってもらいます。
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中

恋の季節

詠裡庵

日が長くなりました。暖かくなり、田や池にカエルの合唱隊が集まって日々練習している声が聞こえてきます。これはカエルが恋の歌を歌っているのですね。カエルの歌が聞こえてくるよ、ガツガツガツガ、ゲロゲロゲロゲロガツガツガ

その歌がいつまでもいつまでも、続きます。

しばらくそんな日が続いた後、私たちが目にするのは、ソフトボール大の白い泡状になった球体です。これはモリアオガエルの卵です。水辺に生えている木の枝などにぶら下がるようにくっついているのですぐ判ります。あの歌っていたカエルたちの恋が成就したのでしょうか。

ふ化してオタマジャクシになったとき、泡のボール

から出て、そのまま水の中に落ちていきます。そのため卵は、ちゃんと計算の上で水の上に産み付けられているのです。

境内の一角の小さな池にこんなたくさんの卵が！と驚くほどの数です。

何日かして池のそばにいくと……泳いでいました、生まれ出てきたばかりの小さなオタマジャクシが。いったいひとつのボールから何匹出てくるのか、たくさん泳いでいます。

二・三日して池をのぞくとずいぶん大きくなっていきます。ただ、数は減っているようです。池の中には、鯉やイモリなどもいて、その餌になつてしまつて、生き延びておくと、池の外から願うばかりです。

モリアオガエルなどカエルたちは自分自身ではそうひろい範囲を動き回ることはなく、池の周りで育つた

先月の母の日に続いて今月は父の日が近づいてくる。子供も幼稚園の時には色々作ってプレゼントしてくれたものだが、卒園すると特に何かあるわけでもなく、気づくと父の日が終わっている。かくいう自分も恥ずかしいながら、なかなか親孝行できずにいる。

カエルはまたその池に帰るそうだと聞きました。だから餌にならないよう上手に逃げて次の年も卵を産み付けて欲しいと思います。

紅葉の木に産み付けられた卵と、オタマジャクシと生まれつきの浅いカエル。数多い外敵にもめげずに成長し、生命を次の世代につないでいるのです。当たり前前の自然の営みかもしれませんが、池の外から成長を応援したくなります。

**俳壇** みのり

雲低くへりの旋回街薄暑  
艶増せる大黒柱夏に入る

青葉風磴八十段御堂まで  
夏薔遠き故郷の偲ばるる

一人寝の夢をくすぐる遠蛙

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

さて親孝行といつても色々あるが、お祖師様は、親の面倒を見たリ心配を掛けないようにするのにも親孝行だがお題目をお唱えしてご両親の幸せを願うこともまた特別な孝行だとおっしゃっている。

なかなか親孝行できない方、一度お試しあれ。 U.K

**法華経茶話**

法華経の成立(二)

当時の教団は、在家信者から広大な莊園を寄進されることよって成り立っていました。これによつて出家者たちは生活に困らなくなり、民衆を顧みなくなつていきます。

一方、お釈迦様在世当時の教団は、乞食によつて維持されており、出家者達は民衆の布施によつて自身が生かされているという自覚もありました。だからこそお釈迦様は出家者達と民衆のために平等思想をお説きになつたのです。

この様に当時の教団は、お釈迦様在世時の教団とは随分変わつてしまつていました。そして、その中でいま一度お釈迦様の説かれた平等思想に立ち返るべきであると主張する出家者達が現れ、この者達が後に大乘教団と呼ばれるようになりなりました。法華経はこの大乘教団によつて編纂されたお経です。



歩道が整備され正面にはシダレザクラが咲く



以前の門前広場



工事中的の様子



祖師堂の木がやせて隙間だらけの舞良戸(まいらど)を新調

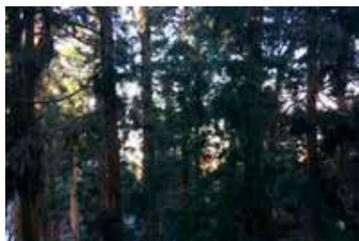


開運殿の舞良戸(まいらど)も新調

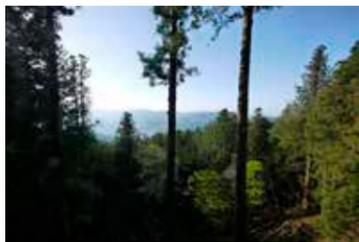
## 宗祖日蓮大聖人 御降誕八〇〇年慶賛整備事業 (中間報告)



妙見山十勝に詠われた景色がよみがえり絵馬堂から北極星も



以前の絵馬堂北側



整備後の様子

# 日蓮大聖人御降誕八〇〇年 慶賛事業中間報告

ごあいさつ

平成二十八年四月以来進めております境内整備事業も宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年の慶年を来たる平成三十三年に迎えるにあたり当面の計画も大詰めを迎えることとなりました。

ここに今までご協力賜りました方々の芳名を記し感謝の意を表しますとともに事業内容の中間報告をさせていただきます。

尚また各位には今後共浄業達成に向けて更なるご協力をお願い申し上げます。  
平成三十年五月吉日

日蓮宗霊場  
能勢妙見山

境内整備保存資金

御志納者芳名  
(敬称略)

【特別志納金】

- 山主 植田 観樹
- 総代 前田 豊實
- 総代 大西 俊英
- 総代 加堂 恵二
- 総代 城阪 一郎
- 総代 西山 健

【百万円以上】

- 竹内行辨
- 若木春恵

【十万円以上】

- (株) 光新星
- 北澤 久美
- 井上商店
- 久遠結社 宮武玄澄
- (株) タイチク
- (株) 佐武塗装

【二万円以上】

- 井関 正和
- 小野里 市太郎
- (有)大三島生産者出荷組合
- 森 武彦
- 大原 定男
- 立石 美代子
- 黒岩 清一
- 石垣 秀夫
- 石垣 清子
- (株) 仲井工務店
- 富田 晴孝
- 野田 房子
- 小坂 俊成
- 飯田 ふみよ
- 林 哲也
- 岸 和慶
- 喜多 成典
- 栗本 保彦
- 小仲 房子
- 森川 登
- 生田 扶美枝
- 前田鑿泉工業 (株)
- 大西 勝重
- 中井 清喜
- 田中 千世子
- 網干 輝雄
- 竜 恵珍
- 林 まち子
- 安田 淑子
- 吉田 三位子
- 吉田 忠司
- 後藤 欣一
- 佐々木 宏
- 佐藤 秀夫
- 佐野 武彦
- 坂口 正則
- 山野上 禎哲
- 柴村 正一
- 上島 喜代志
- 森下 保夫
- 森田 久代
- 森田 宏
- 森田 朱乃
- 森本 ハナエ
- 神徳 康代
- 生田 涌希
- 谷口 日登志
- 中西 定男
- 町田 喜夫
- 入口 義則
- 能勢 善男
- 富田 日出子
- 匿名
- 林 ゆかり
- 林 加寿代
- 林 まち子
- 安田 淑子
- 吉田 三位子
- 吉田 忠司
- 後藤 欣一
- 佐々木 宏
- 佐藤 秀夫
- 佐野 武彦
- 坂口 正則
- 山野上 禎哲
- 柴村 正一
- 上島 喜代志
- 森下 保夫
- 森田 久代
- 森田 宏
- 森田 朱乃
- 森本 ハナエ
- 神徳 康代
- 生田 涌希
- 谷口 日登志
- 中西 定男
- 町田 喜夫
- 入口 義則
- 能勢 善男
- 富田 日出子
- 匿名
- 林 ゆかり
- 林 加寿代

次の皆様からも  
ご寄付を賜りました  
寺田 ヤス子  
田川 英司

◆御降誕八〇〇年  
慶賛整備事業  
(掲載写真参照)

- 一、門前広場整備
- 一、祖師堂畳替え
- 一、祖師堂舞良戸 (まいらど)新調
- 一、開運殿舞良戸 (まいらど)新調
- 一、境内山林整備工事
- 一、その他、補修整備

以上、中間報告させていただきました。尚、別に昨年十月の台風二十一号による災害復旧工事につきましても、ご信者様には多大なるご協力を賜っており、改めてご報告御礼申し上げますが、まずはこの紙面にてあわせて御厚礼申し上げます。